

株式会社野村総合研究所

Oracle Cloud Infrastructureの日本リージョン開設に合わせ Oracle Cloud ラーニング・サブスクリプションを受講 高度なシステム基盤がデザインできるアーキテクトを育成する



コンサルティングサービスとITソリューションを軸にビジネスを展開する株式会社野村総合研究所(以下、NRI)。Oracle Databaseを活用した業務ソリューションの開発を手がける同社では、Oracle Cloudの日本リージョン開設に対応すべく、同社のエンジニアがOracle Cloud ラーニング・サブスクリプションを受講することを推進。これにより、確実なスキルアップを実現するとともに、Oracle Cloud Infrastructure 2018 Architect Associateの資格取得も支援している。

多数のエンジニアを早期に育成する為に Oracle Cloud ラーニング・サブスクリプションの受講を推進

「未来創発」を企業理念に、サステナブルな社会の創出を目指すNRI。社会や企業の方向性を洞察し、あるべき姿の実現に向けて提言を行う「ナビゲーション」と、的確な解決策を講じる「ソリューション」の2つを相乗的に機能させることで、変化の激しい現代において、社会の仕組みづくり/顧客ビジネスの成長/人々の快適な暮らしなどを支援している。

企業における情報システムが巨大化・複雑化し、土台となるシステム基盤の重要性が高まる昨今、同社は先端技術を戦略的に採用しつつ、顧客に対し最適なシステム基盤を提供してきた。中でも、Oracle Cloud Infrastructure (OCI) は、同社のビジネスを支える重要な基盤のひとつだ。

一般に、エンタープライズ領域では高度な可用性とパフォーマンスが求められるため、Oracle Databaseの重要性も高くなってくるが、オンプレミス環境で実現したサービスレベルをクラウド化することは困難だ。その点、



常務執行役員
マルチクラウドインテグレーション
事業本部長

竹本 具城氏

OCIはOracle Databaseに最適なクラウドであり、システムの将来像を模索するうえで理想的な存在といえる。常務執行役員 マルチクラウドインテグレーション事業本部長 竹本具城氏は「私たちのミッションは付加価値の高いシステム基盤を実現していくことにあります。そういう意味でも、Oracle Databaseを中心とした業務ソリューションにおいて、OCIの活用は欠かせません」と語る。

Oracle Cloudの日本リージョンの開設に向けて、エンジニアの早急なスキルアップが求められる。そこで同社はこれに対応すべく、同社のエンジニアがオンライン形式で学べるOracle

Cloud ラーニング・サブスクリプション(以下、CLS)を受講することを推進している。

「オンライントレーニングの良さは、好きな時間に少しずつ学習できる点です。研修施設での受講も従来通り推進していますが、多数のエンジニアを早期に育成するには業務のすき間時間で少しずつ受講できるCLSが最適な教育ツールだと判断しました」(竹本氏)

データベース管理者から クラウドアーキテクトへの進化を支援

NRIでは、2018年末よりCLSの受講を開始。現在は、Oracle Databaseを中心としたミッションクリティカルな業務システムの開発に関わるエンジニアが、OCIのアーキテクチャ設計など最新のコンテンツを学習している。

受講した感想について、マルチクラウドインテグレーション事業部 NRI認定ITアーキテクト 大塚紳一郎氏は「データベース管理者がクラウドアーキテクトへ進化していくのに最適だと思いました。CLSでは、クラウドという広い領域の中を迷うことなく進んでいくため、学習内容がわかりやすく整理されており、IAM/VCN/Computeをはじめとした構築技術から、

OCIへのデータ移行技術まで効率良く学ぶことができます。ハンズオン環境が用意されているのも理解を深める上で役立ちました」と話す。

Oracle Cloud Infrastructure 2018 Architect Associateは エンジニアの海外での活躍にも有効な資格

現在、NRIのエンジニアはCLSで習得したスキルをベースに、OCIの認定資格である「Oracle Cloud Infrastructure 2018 Architect Associate」の取得に挑戦している。同社では、この資格をOCIに関する高い実装力を持つことを客観的に裏付けるものとして重要視。特に海外で活躍する際には欠かせないと期待を寄せている。

「近年、エンジニアの舞台は海外へと広がりつつありますが、この流れはますます加速していくことでしょう。こうした状況の中、世界共通基準のスキルを証明できるOracle Cloud Infrastructure 2018 Architect Associateは、グローバルに活躍の場を広げる上で高い価値があります」(大塚氏)

今後、Oracle Cloud Infrastructure 2018 Architect Associateの資格を取得したエンジニアは、OCIを活用することで、業務システムをクラウド上に構築する実績を積み上げていくだろう。さらには、PaaSを活用し高度なシステム基盤をデザインできるクラウドアーキテクトへの成長を目指していくはずだ。

「マルチクラウドなインテグレーションを推進するにあたっては、牽引するアーキテクトが最も重要な存在です。こうしたアーキテクトと周囲がお互いに良い影響を与え合うことで組織力が高まり、人材の裾野が広がると考えています」(竹本氏)

Oracle Cloud Infrastructure 2018 Architect Associateは重要な資格だが、その取得はあくまで入口に過ぎない。大塚氏は「その先のPaaSの活用まで見据えたシステムのモダナイズが重要であり、CLSはPaaS領域までしっかりと学習プランが組まれている点が素晴らしいと思います」と語ってくれた。



マルチクラウドインテグレーション
事業部
NRI認定ITアーキテクト

・ Oracle ACE Associate
・ Oracle MASTER Platinum
10g, 11g, 12c (Platinum of the year 2016 in Japan)
・ Oracle MASTER Cloud Oracle Database Cloud Service
・ Oracle MASTER Cloud Oracle Java Cloud Service
・ Oracle Cloud Infrastructure 2018 Certified Architect Associate

大塚 紳一郎氏

株式会社野村総合研究所

所在地：東京都千代田区大手町1-9-2

設立：1965年4月1日

資本金：193億3,840万円

社員数：6,297人(2019年3月31日現在)

事業概要：コンサルティング、金融ITソリューション、産業ITソリューション、IT基盤サービス

日本オラクル株式会社

〒107-0051 東京都港区元赤坂1-3-13 赤坂センタービルディング12F
oracle.com/jpオラクルユニバーシティ
お問い合わせ窓口ORACLE®
University

TEL 0120-155-092

URL <http://www.oracle.com/jp/education>